

編集後記・Editorials

魚類学雑誌
48(2): 134

去る9月11日にアメリカのニューヨークで発生した世界貿易センタービルなどへの同時多発テロ事件は、多数の国々の罪なき人々を無差別に殺戮するというかつて経験したことのない大事件であり、世界の平和と民主主義に大きな脅威をもたらしたと言えるでしょう。また、その後の米国と英国によるアフガニスタンへの報復爆撃も、テロリズムを国連による裁判と国際世論によって封じ込めるべきという世界の世論と逆行し、問題解決をより困難にしたとも指摘されています。皆さまはいかに受け止められたでしょうか？

さて、魚類学雑誌48巻2号をお届けします。本号は、総説論文1篇、本論文1篇、および短報3篇の構成となりました。総説論文は、これまでその系統学的検討が必ずしも十分ではなかったカライワシ類を中心とした下位真骨類の系統を、主にカライワシ類の単系統性とその系統的位置に焦点を合わせ、最近の著者らのミトゲノムデータを加味して論じた力作と言えるでしょう。また、本論文も福井県南嶺地方の淡水魚類相を明らかにし、その生物地理学的特徴を論じた読み応えのあるものと言えます。

和文誌に、このような地域の魚類に関する貴重な資料を掘り起こし、新しい解析手法によって、これまでとは違った視点で論議を加えた論文がもっと多く投稿されることを編集委員会では望んでおります。

ところで、英文誌と和文誌に分割されて6年を経ますが、このうちの5年間にわたって和文誌主任編集委員を務めさせていただきました。しかしこの度、編集のマンネリ化を防ぐことその他、有力な人材を得ましたことを受けて、2002年1月からその任を交代することになりました。この間における会員の皆さまからの叱咤激励とご協力に感謝するとともに、1月から新しく主任編集委員の任に着く片野 修氏にご援助、ご協力下さいませようお願いいたします。

なお、48巻の編集にあたり、下記の方々に原稿校閲でお世話になりました。ここに記してお礼申し上げます。

青沼佳方、赤川 泉、井口恵一郎、今村 央、遠藤広光、加藤雅也、川瀬裕司、齋藤憲治、酒井治己、猿渡敏郎、白井滋、瀬能 宏、立原一憲、福井 篤、細谷和海、松浦啓一、森 誠一、山本祥一郎、渡辺勝敏 (AG)